

## 一般演題12-2

## 最近経験した骨髄炎難治例の検討と当院での取り組み

田村裕昭 川島真人 川島真之 永芳郁文  
 本山達男 古江幸博 佐々木聡明 尾川貴洋  
 渡邊裕介 小杉健二 清水正嗣 高尾勝弘  
 山口 喬 宮田健二

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院

難治性の骨髄炎は、来院までに多数回の手術を受け骨組織や周辺軟部組織の循環不全を伴っていることが多く、さらに腐骨や壊死骨の存在、MRSA感染やバイオフィーム産生による抗菌薬の使用上の問題、感染性偽関節では感染の鎮静と骨接合が必要になることなどにより、治療に長期間を要することも少なくない。高気圧酸素治療（以下HBO）は、局所の低酸素状態を改善し組織修復を促すとともに、白血球の抗菌能を増強し感染創傷の治療を促進する。さらに、抗菌薬の抗菌作用の増強、骨形成能の促進、細菌発育の抑制作用などで骨髄炎の治療に有効に作用する。これらの治療効果については本学会でも報告してきた。

しかし症例によっては、すでに種々の治療を受け、医療に対する不信感、病気に対する理解の不足、社会復帰への焦りなどの問題を抱えたまま来院されることが少なからずある。このような問題を改善する意味からも、手術が必要と思われる例でも、当院ではまずHBOを行うことで、腫脹や排膿の減少から治療効果を実感され、治療意欲の向上がみられる。この間に治療や病気に対する理解を得るために、HBOの意義と今後の治療方針を十分に説明し、骨髄炎教育DVDをベッドサイドで放映し、HBO・骨髄炎関連パンフレットの配布、骨髄炎友の会誌や当院の骨髄炎・HBO関連論文集などを紹介し、骨髄炎とその治療について理解を深めて頂くとともに、信頼関係の構築に努めている。また年に1回は骨髄炎友の会を開催し、同じ病気で闘病している患者さんとの意見交換などで治療への意欲の向上に繋がっている（現在は玄真堂友の会に発展解消）。

当院で開院から2012年までに持続洗浄手術とHBOを併用して治療した骨髄炎症例216例では、良200例（92.6%）、可13例（6.3%）、不可3例（1.4%）であったが、九州労災病院時代（1970～1982年）に持続洗浄手術のみで治療された256例では、良226例（88.3%）、可7例（2.7%）、不可23例（9.0%）であり、HBOの有効性が確認されている（図1）。症例を紹介する。鹿児

島在住の55歳男性で、1999年4月に労災事故による左下腿開放骨折で治療を受けたが骨髄炎となり、その後多数回の手術を受けたが改善せず、排膿が続き約11年経過した2010年8月に当院を初診した。長期の労災治療で、監督署からの治療終了の打診で心理的不安定もあったが、左下腿の感染性偽関節であり、まず30回のHBOを行いながら、今後の治療方針を説明し、病気への理解を深めて頂くことに努めた。その後2010年10月に搔爬・持続洗浄療法を行った。退院後は、鹿児島島の医療機関にHBOを依頼し継続した。残念ながら再発し、2011年8月に再手術を行いその後は問題なく経過し、骨癒合と感染の鎮静が得られ、独歩可能になり、労災も終了することができた（図2）。

難治性骨髄炎に対するHBOは、骨髄炎に対する医学的効果は勿論であるが、術前・術後、待機中に行うことで、心理的不安を和らげ治療への意欲の維持と向上に繋がっている。HBOは、感染制御と組織修復を図りながら、手術前後の心理的安定にも重要な役割を担っていると思われる。

	良	可	不可	合計
持続洗浄 (九州労災病院) 1970-1982	226 (88.3%)	7 (2.7%)	23 (9.0%)	256
持続洗浄+HBO (川島整形外科病院) 1981-2011	200 (92.6%)	13 (5.6%)	3 (1.4%)	216

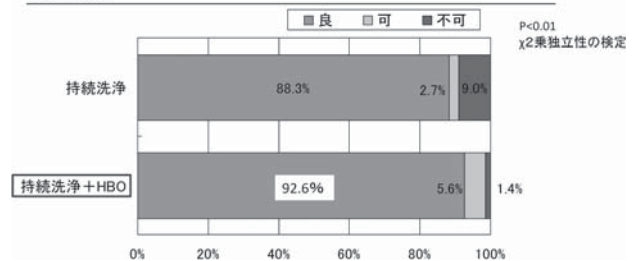


図1 持続洗浄単独とHBO併用の治療成績の比較

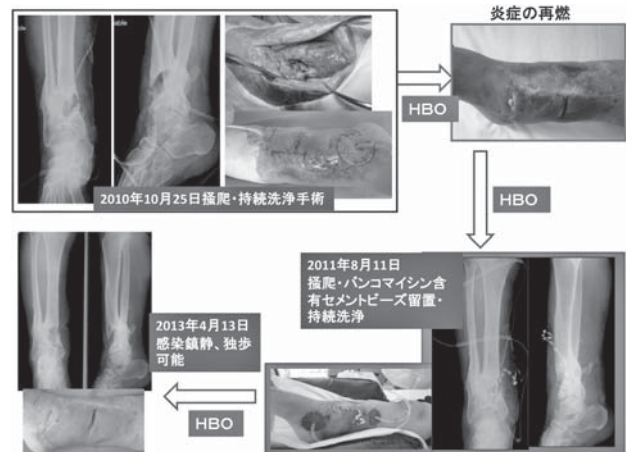


図2 症例 55歳男性 右下腿感染性偽関節